

## 意見の整理表

## どんな子どもを育てたいか

## 思いやり、優しさがあ、正しい判断ができ、社会性・向上心が豊かな子

## ■今まで審議における主な意見

「知・徳・体」の基礎を養う

思いやり、判断力、学力

- 思いやりがあり、責任が持てる子
- 人の痛みが分かり、周りに左右されず意思を持てる子
- 下級生の面倒を見ることができお手本となるような子、自分で善悪の判断がつけられる子
- 思いを自分の言葉で他者に伝えられる子
- 確かな学力の定着と伸長

社会性

- 社会性のある子、社会の中で良好な関係を維持しながら自分の能力を自由に発揮できる子
- 社会で生きていく判断力と想像力を養える子

向上心

- 競争心を持ち、努力しつづけられる子
- 自分自身が挑戦できる子、夢に向かって努力する子
- 積極的に夢に向かって自分の能力を伸ばせる子

## ■東西愛宕小の現状

東愛宕小の子ども

- ①施設面でも教育の面でも伸び伸びしている。
- ②子どもの人数に対して、地域の大人のほうがかなり多く、ほとんどの行事に地域の方が参加している。子どもだけでできないことも大人が入ってカバーしており、何の支障もなく運営されている。地域と密着しているところが良い。

西愛宕小の子ども

- ①自然がいっぱいで、子どもたちはとても元気。
- ②山の天辺にあり、横が団地でもなく敷地もあるので、環境が良い。
- ③少人数は先生の目が行き届いており、親が安心。子どもは先生に近く、話やすい。
- ④他学年と仲が良い。通常1学年で行うことを2学年で行い、小さい子の面倒をみたりすることができ、兄弟、姉妹になることもできる。

## ■市教委の取り組み

## 平成21年度教育目標（抜粋）

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 市民の一人として、地域社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び、考え、行動する個性と創造力豊かな人間
- 家庭・学校・地域と連携した青少年の健全育成
- 社会教育施設の機能の充実、文化財・歴史資料の保存・収集・活用の推進
- 学習の機会や情報の提供による家庭教育支援

これまでの審議における意見	対応
<b>どんな学校にしていきたいか</b>	
<b>1 「知・徳・体」の人間形成の基礎を養う学校</b> (1) 切磋琢磨するためある程度の人数は必要 (2) 子どもたちの自然な学びあいという観点から、多人数による学校生活 (3) 確かな学力の向上と伸長のための手厚い対応 (4) 知力については競争原理も大きな効果がある (5) 授業の中身が分かるかどうかが大重要 (6) 特別支援学級と統合は切り離して考えてよいか (7) 子ども同士でつくられる位置関係がある程度入れ替わるような環境 (8) 判断力や価値観を培うために人と係わる機会が必要 (9) 子どもは人とのかかわりで成長する	
<b>2 魅力（特色）ある学校について</b> (1) 学級数は少なく、学年の人数は多く（小さな学級で2クラスが理想） (2) 放課後子ども教室のような取組が必要 (3) 地域の学校応援部隊がないと放課後子ども教室の制度にはならない (4) 縦割り活動は、規模は関係なく、学校の中で工夫して取り入れている (5) 子ども達は、はつらつと学校生活を送る環境が重要 (6) 上級生が下級生をフォローする縦割り活動は良い	
<b>3 指導力のある教員配置の学校</b> (1) 友達同士だけでなく大人との係わりも重要で、子ども達と先生の信頼関係が大事 (2) 人数が少ないと子どもと先生の距離が近くなる (3) 統合になった場合、特定の学校の先生の配置を多くすべきではない (4) 数年は学級を多く人数を少なくして教員数を増やすべき (5) 先生が気持よく仕事をできる環境が必要 (6) 教員に指導力がつくまでピアティーチャーにも頑張ってもらって育ててもらう仕組みはいい (7) 先生の目が行き届くこと、複数の目で子どもをみること、は親が安心 (8) 教師がいろんな人と触れ合う中で力をつけることが必要 (9) 推計上は統合が必要であり、その上で手厚い人的配置が必要	
<b>4 東西愛宕小の実情をふまえた学校</b> (1) 良くなる保障がない限り、今の学校で充分 (2) 統合してもまた小規模校で大きくなるのは10年前と同じ (3) 単学級は上手くいけばいいが、一度つまずくとサポートできない (4) 全ての行事に児童だけでなく地域の参加がある (5) 統合する前に現状を見て、もっと長いスパンで考えることが必要 (6) 東愛宕小も縦割り班活動は熱心	
<b>どんな地域を作って学校を支えていきたいか</b>	
<b>1 子どもにとって安心・安全な環境整備</b> (1) 長くなる通学路の安全・安心の確保 (2) 地域の声がけや見守り	
<b>2 学校と家庭・地域の密接な連携・支援</b> (1) 両校の特徴である地域に密着している点を生かす (2) 地域の人々の学校への愛着は大きな力 (3) メインは保護者の情熱	